

令和 8 年度 学校経営要綱

八女市立上陽北浜学園

○中期目標（令和 8 年度～令和 10 年度）

主体的に課題に挑戦し続ける子供の育成

本校では、令和 5 年度から令和 7 年度までの 3 年間、「主体的に課題を解決する子供の育成」を中期目標に掲げ、児童生徒が自ら課題を見だし、自分の考えを形成しながら、他者と伝え合い、目標達成に向かって粘り強く取り組む姿の育成に努めてきた。その結果、学習や学校生活の様々な場面において、自ら考え、行動しようとする姿が一定程度見られるようになるなど、着実な成果が認められている。

一方で、変化の激しい社会を生きる子供たちには、課題を解決する力にとどまらず、困難や失敗に直面しても学びを止めることなく、より高い目標や新たな課題に向かって挑戦し続ける力が一層求められている。また、学習に主体的に向かおうとする態度や、自らの学び方を振り返り、更新しながら学び続ける力の育成も重要な課題となっている。

次期中期目標である「主体的に課題に挑戦し続ける子供の育成」は、これまで培ってきた「課題を解決しようとする力」を基盤とし、その学びを一過性のものにとどめることなく、困難や失敗を経験してもなお挑戦を継続する姿勢へと発展させることを意図したものである。ここでいう「挑戦」とは、課題解決の過程において生じる試行錯誤や失敗を成長の糧と捉え、より高い目標や新たな課題に向かって自ら進もうとする態度を指す。主体的に課題を「解決する」段階から、主体的に課題に「挑戦し続ける」段階へと学びを深化させることで、変化の激しい社会においても自ら学び、成長し続ける子供の育成を目指す。

義務教育 9 年間を見通した連続的な指導の中で、挑戦を重ねる経験を積み重ね、自己の成長を実感できる教育活動を展開することにより、本校の教育の質を一層高めていくものである。

○本年度の重点目標

他者とながら、挑戦を積み重ねる子供の育成

（1）重点目標設定の理由

本校の児童生徒は、これまでの取組を通して、自分の考えを持つようとする姿勢や、仲間と関わりながら学ぼうとする意欲が着実に育まれてきている。一方で、学習や活動に対して、失敗や困難を過度に意識し、自信をもって一歩踏み出すことにためらいを感じる場面や、見通しをもって粘り強く取り組むことに課題が見られる場面も少なくない。また、学力面においては、思考力・判断力・表現力を必要とする場面で力を十分に発揮しきれない状況が見られ、学習内容の理解に加え、「分からないことに向き合う姿勢」や「学び直そうとする態度」の育成が求められている。情意面においては、学級や集団の中で安心して自分を表現できる児童生徒と、消極的になりがちな児童生徒との差が見られ、挑戦を肯定的に捉える学校文化の一層の醸成が必要である。

以上の実態を踏まえ、中期目標の実現に向けた初年度の重点として、本年度は「他者とのつながり」を基盤とした挑戦に焦点を当てる。現代社会における課題は、個人の力のみで解決できるものではなく、他者と協働し、意見を交わしながら乗り越えていく力が求められている。本校の児童生徒は、学年間・学級間のつながりを生かした活動に強みを持っており、この資質・能力をさらに伸ばすことで、安心して挑戦できる土台をより確かなものとする必要がある。

そこで、他者との関わりを通して挑戦を重ねる経験を意図的に積み上げることを、本年度の重点目標として設定した。

（2）重点目標の意味

本年度の重点目標は、学力向上や生活指導を個別に捉えるのではなく、すべての教育活動を貫く「姿勢」

や「態度」の育成を中核に据えたものである。ここでいう「挑戦」とは、困難や失敗を乗り越えることのみを意味するものではなく、これまでよりも一段高い目標や、新しいことに積極的に取り組もうとする姿勢を含むものである。また、「挑戦を積み重ねる」とは、結果の成否や完成度を重視するのではなく、「まずやってみる」「続けてみる」「もう一度取り組んでみる」といった小さな行動の積み重ねを価値付けることを意味している。他者とのつながりの中で得られる安心感や支えを基盤として、児童生徒が主体的に挑戦を重ね、その経験を次の学びへとつなげていく姿の育成を目指す。

本年度は、児童生徒会スローガンも「挑戦」であることから、各教科の授業、特別活動、生徒指導等を通して、学校全体で「挑戦は成長につながる」「やればできる」という共通認識（「成長マインドセット」）を形成し、安心して挑戦できる学校文化を築くことを重視する。

(3) キーワードによる「成長マインドセット」の焦点化

<p>○ 「ぐんぐん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挑戦を重ねる中で、自分の成長を実感できる姿 ・ 今までの自分と比べて一歩前進しようとする姿 ・ 努力や試行錯誤を通して学びを深めていく姿 	<p>○ 「にこにこ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 失敗を恐れず、安心して挑戦できる心理的な土台 ・ 仲間や教師に支えられながら前向きに取り組む姿 ・ 自分や他者の挑戦を認め合える集団の姿
--	--

(4) 本年度に目指す具体的児童生徒像

- 分からないことにも臆せず取り組もうとする児童生徒
- 失敗してもあきらめず、再度挑戦しようとする児童生徒
- 自分なりの目標や見通しをもって学習や活動に取り組む児童生徒
- 仲間と関わり合いながら、安心して考えや思いを表現できる児童生徒

○経営の重点（重点目標達成のための方法）

(1) 指導観・評価観の転換

- 結果や正解だけでなく、挑戦の過程を価値付ける指導の徹底
- 努力や試行錯誤を言語化して認める評価の工夫

(2) 授業改善の重点化

- 見通しをもたせる導入、振り返りの充実
- 思考・判断・表現・試行錯誤の時間を意図的に確保

(3) 安心して挑戦できる集団づくり

- 学級経営を基盤とした安全・安心な風土の醸成
- 互いの挑戦を認め合う関係性の構築

(4) 児童生徒会活動との連動

- スローガン「挑戦」を生かした主体的・自治的活動の推進
- 自分たちで考え、実行し、振り返る経験の充実

○重点目標達成に向けた方針・方策

〈方針〉

- 児童生徒一人ひとりの小さな挑戦を見逃さず、継続的に認め、励ます。（『鍛ほめ福岡メソッド』）
- 義務教育9年間の学びの連続性を意識し、発達段階に応じた挑戦の場を設定する。

〈方策〉

- 授業における主体的な活動場面の計画的設定
- 振り返りを通じた学びの自覚化
- 学級・学年・学校全体での挑戦の共有と価値付け

○学校経営構想図

